

用語の決定

～ウオッカ，アプリケ～

平成24（2012）年12月7日（金），放送センターで第1364回放送用語委員会が開催された。

今回は，外来語についての用語の決定を行った。そのほか，外来語の発音・表記の問題点を議論した。

用語の決定①（決定）

ロシア語「ВОДКА [votkə]」の発音と表記

ウオッカ

これまでの発音・表記 「ウオッカ」

理由

ロシア語の原音に近い表記は「ウオトッカ」である。これを日本人に発音しやすいように「ウオトカ」「ウオツカ」などと書くようになった。「ウオッカ」「ウオッカ」は、「ウオツカ」の「ツ」を促音と読み誤って生じた語形だが，現在，日本語としては「ウオッカ」「ウオッカ」の形で定着しており，「ウオツカ」では違和感があるという声がある。そのため，日本語として定着した発音・表記に変更する。また，新聞協会¹⁾でも「ウオツカ」から「ウオッカ」に変更することが検討されている。

用語の決定②（報告）

フランス語 appliqué の発音・表記

アプリケ

これまでの発音・表記 「アプリケ」

理由

新聞協会でも「アプリケ」をとっており，一般にも「アプリケ」の表記が多い。NHKでも発音・表記の慣用に合わせて「アプリケ」とする。外来語の促音挿入は，母音のあとに，破裂音，摩擦音，摩擦音がある場合に起こることが多い。「アップル」「キッチン」「エッセー」などがその例で，「アッ

プリケ」もここに含まれる。「キッス」→「キス」，「アッピール」→「アピール」などのように，時代とともに促音が使われなくなる例も見られる。しかし，「appliqué」については，促音を入れて発音する形が慣用であると考ええる。

意見交換① イ列・エ列のあとの「ア」「ヤ」

問題点 外来語のイ列・エ列の次の「ア」または「ヤ」は，原則として「ア」と発音・表記し，慣用が定着しているものは「ヤ」と発音・表記することになっている。もともと [ia] と [ija]，[ea] と [eja] の発音は，[ヤ] と発音しているのか，[ア] と発音しているのか判断がつきにくい場合が多いという問題がある。そのため「ア」と「ヤ」で語形がゆれている語がある（例：ダイヤモンド→ダイアモンド，パイア→パイヤなど）。また，「ヤ」→「ア」に発音・表記が変化していると思われる語もある（例：カフェテリア→カフェテリア，ギヤ→ギア）。

原則²⁾ はこれまでどおり「ア」と発音・表記することとし，「カフェテリア」「ギヤ」「メタセコイヤ」（いずれもNHK現行表記）のように，新聞協会と不統一になっている語を，「カフェテリア」「ギア」「メタセコイア」と発音・表記を変更してはどうか。

資料

単語	書き言葉コーパス ³⁾		goo 検索	
	ア	ヤ	ア	ヤ
cafeteria	88	0	77万8,000	201
gear	761	181	421万	32万
low gear	1	2	2万5,100	5,470
Metasequoia	19	4	8万6,700	2万2,400

意見

井上由美子委員：「cafeteria」は若い人が使うことばであり，「カフェテリア」でいいだろう。「gear」は気になる。年配の方も表記で「ギヤ」を使うこともあるだろう。またわれわれも「ヤ」で発音してい

るようにも思う。「ギヤ」についてはもう少し慎重に決めたほうがよいと思う。

荻野綱男委員：資料の見方として、「ローギア」は、書き言葉コーパスで「ヤ」が多くなっているが、件数が少ない(全3件)ので異常な値をとっていると見るべきである。goo 検索のほうが信頼性があると言えるだろう。単独の場合「ギア」が多い。「ローギア」になっても違いはないだろう。実際にどちらがどれくらい使われているかを考えるのは大切なことだと思う。一般の人がどう使っているのか、それに合わせるほうが違和感が少ないだろう。「ア」を原則に、「ヤ」を例外的に認めるという方針に賛成であり、このほうがよい。日本語に入ってきたとき、昔は「ヤ」、最近は「ア」で取り入れる傾向がある。新しい地名や人名、新しい語が出てきたときには新しい表記に合わせるほうがよい。そういう意味では「ア」にしておけば、今の慣用に合うことになる。「ヤ」は古いもので、慣用が定着しているものに認めておけばいい。

清水義範委員：「ア」が原則で、慣用により「ヤ」とならざるをえない。ただ、慣用により「ヤ」と書くものがあるというのは、どれを「ヤ」にするか、実際の使用例で合わせていくしかないだろう。

井上史雄委員：検索結果を踏まえると原則のとおりでいいだろうと思う。書き言葉コーパスは少し古いデータも入っているが、goo 検索は現在を反映していると言える。術語として、ある専門分野で表記を定めているものがある。たとえば、国名は外務省で定めている。また、JISで定めているものもある。動植物は和名で定められている。異なる表記で定めると専門分野からおかしいと指摘される可能性がある。しかし、一般の用法に合わせた表記なのだ、と言えいいだろう。新聞は、表記だけを考えればよいが、NHKはこれを発音しなければいけない。「ダリヤ」「ダリア」どちらかに定まったら、発音もそれに合わせることになるだろう。アクセントは、2つのアクセントを認めている。外来語の発音・表記も2とおりに認めるという段階を作る必要があるかどうか。その扱いについて現場の意見を聞きたい。

野村雅昭委員：原則の確認および提案の3語について異論はない。今回、議題・資料を見ていて、疑問に思うことがある。ネットなどを利用することは結構だと思う。しかし、ただ単純に数を比較するだけでなく、どのような使用が多いのかを調べる

必要がある。「カフェテリア」はいつから『日本語発音アクセント辞典』にのったのだろう⁴⁾。仮にそのときに「ヤ」で決めたとして、その後どのくらいの間隔で発音・表記を見直すことができるのだろうか。外来語のようにゆれるものは、一応決めておいて、違う発音・表記に変化してきた際には、また変更するというでいいだろう。

天野祐吉委員：原則はこれでいい。新聞の紙面とテレビの画面で同じ単語の表記が異なることはあまり好ましいことではない。新聞協会に合わせる、ということではないが、新聞と合わせても問題のないものは極力合わせてしまったほうがよいと思う。全部合わせなくてはいけないとは思わないが、特に「カフェテリア」のようなものは、普通に「ア」だろうと思うし、統一してもいいだろう。

町田健委員：原則は「ア」で書くということにかまわない。また、「カフェテリア」「ギア」「メタセコイア」も「ア」にするということで賛成である。ただ、実際の発音は「ヤ」である。「ヤ」にしか聞こえない。発音どおりだと「ヤ」になるが、原語のつづりが「a」で終わっているものが多いので、これでかまわないと思う。たとえば、「コンベヤー」「ワイヤー」は「a」で終わっていないので、「ヤ」で正しいということになる。原語のつづりを意識してカナを決めるのが最近の傾向で、それが一般化している。発音とずれることになるが、これでいいだろう。

意見交換② [fo] のカタカナ表記「ホ」「フォ」

問題点 原音 [fa·fi·fe·fo] を含む語は、[ファ・フィ・フェ・フォ] または [ハ・ヒ・ヘ・ホ] と発音する場合がある。[ファ・フィ・フェ] は、すでにほとんどの語でこの発音・表記をとっているが、[fo] については語によって [ホ] になったり、[フォ] になったり、読みが異なる。音楽用語や新語に「フォ」で発音・表記される語はあるものの、多くは「ホ」と発音・表記されている。しかし、「テレホン」→「テレフォン」、[ユニホーム] → [ユニフォーム] などのように、「ホ」と「フォ」でゆれる語も出てきている。また「プラットホーム」は駅の場合、「プラットフォーム」は、コンピューター用語などの場合、というように使う場面によって発音・表記が異なる語も出てきている。

発音・表記の原則⁵⁾ を次のようにかえてはどうだろうか。

[fa・fi・fe・fo] の音は次のように扱う。

(1) 原則として「ファ・フィ・フェ・フォ」と発音・表記する。

〈例〉ファン fan, フィールド field
フェルト felt, フォークダンス folk dance

(2) [ハ・ヒ・ヘ・ホ] と発音することが一般的である語は「ハ・ヒ・ヘ・ホ」と書く。

〈例〉ウエハース wafers, セロハン cellophane
モルヒネ morphine, ヘット vet (オ)
テレホン telephone
ヘッドホン headphone

注 [fo] については、[フォ] と発音される場合と、[ホ] と発音される場合とがあるが、新しく使われるようになった外来語は、現代では [フォ] と発音される傾向がある。当面「フォ」と発音・表記することとし、変化してきた場合には別途検討する。

〈例〉スマートフォン (略称: スマホ) smartphone

注「ファ・フィ・フェ・フォ」の発音は、原音のような歯と唇と使った発音でなく、両唇を使った日本語としての発音で差し支えない。

意見

町田健委員:「ファ・フィ・フェ・フォ」はだれでも発音ができる。表記と発音が一致しており、原語を考へても問題ない。また、昔から使われているものは「ハ・ヒ・ヘ・ホ」にするということで、何も問題ないと思う。

野村雅昭委員:「スマホ」は省略形の最後をどうするかという点で微妙な問題である。「マスコミ」のように「マスコミユ」でなく定着してしまったという例もある。外来語の発音・表記については、例外や許容を認めないととてもやっていけない。今、ゆれていると思われる語は無理に1つにしないで第1語形と、第2語形を認めるものがあったてもやむをえない。原則の変更案は、かなり「ファ、フィ、…」のほうに傾いている。それが今回のねらいだと思うが、今までに比べるとかなり強い。ほかの項目と表現のバランスをとる必要はあるが、これで問題はないだろう。

井上史雄委員:たとえば「コミュニティーセンター」を「コミセン」とする場合がある。「ミュ」を「ミ」

で縮めている。略語は4音節になることが多いことを考えれば、「スマフォン」なのかもしれないが、「スマホ」のほうが短いということだろう。略語をもとにして本来の表記を考えるのでは本末転倒である。楽器は「フォ」が多いが、そのほかの語は「ホ」が多い。ここでもJISをチェックしてほしい。JISでは戦前、日本人に発音しにくい「ファ・フィ・フェ・フォ」は採用せず、「ハ・ヒ・ヘ・ホ」とした。それが戦後も引き継がれた。マニュアルも「テレホン」「ヘッドホン」になっており、それに慣らされたということである。楽器はこうした規則にしばられずに原音に近く「ファ・フィ・フェ・フォ」が多くなったということだろう。原則変更案でいいと思う。

荻野綱男委員:原則の変更案ということで賛成である。当時は、一般の日本人は「ファ・フィ・フェ・フォ」というのが耳慣れないし、あまり使われないということでハ行音にするしかなかった。最近では、英語教育が行き届いたこともあり「ファ・フィ・フェ・フォ」は普通に使われるようになってきている。ゆれが生じるということも、結局のところ歴史的な経緯でゆれが生じているので、これもしかたがない。昔から使われているものは「ホン」であり、最近使われるようになったものは「フォン」であるということだ。それでだいたい説明できるだろう。専門分野によってはこうした用法が確立している場合もある。そういったものがあれば例外とすればよい。

井上由美子委員:現在は、携帯電話会社の広告がいちばん多く、よく目にすることになる。携帯会社が「フォン」を使えば、そちらに流れていくのが自然な流れである。売れるものに一般の慣用が流れるのはしょうがない。たとえば、「ウオッカ」も日本でいちばん売れているスミノフが「ウオッカ」をとっており、それに慣用が流れているということだと思う。むしろ、「テレホン」も最近では「テレフォン」とするものが多いのではないかと思うぐらいである。しかし、原則案に賛成である。

意見交換③ 「チック」と「ティック」

問題点 [ti] は「ティ」と書くことを基本にしているが「-tic」の語は、「ロマンチック」「プラスチック」「ドラマチック」などのように「チ」を基本とし、一部、新しく使われるようになった語は「ドメスティックバイオレンス」などのように「ティ」としている。「エロチック」→「エロティック」, 「デモクラチック」→

「デモクラチック」のように「ティック」の語形も見られる語と「プラスチック」「エキゾチック」や「～的」という意味で造語成分として使われる「～チック」(例:おとめチック, まんがチック)のように「チック」で慣用が固定している語とがある。発音・表記の原則⁶⁾を次のようにかえてはどうだろうか。

[ti・di] の音は次のように扱う。

(1) [ティ] [デイ] と発音することが一般的である語は「ティ・デイ」と書く。

〈例〉ティーパーティー tea party
コメディー comedy
アイスクャンディー ice candy

(2) 慣用により [チ] [ジ] と発音される語があり、これは「チ・ジ」と書く。

〈例〉チケット ticket, ジレンマ dilemma
プラスチック plastic

(3) 慣用により [テ] [デ] と発音される語があり、これは「テ・デ」と書く。

〈例〉ステッキ stick, アイデア idea

注 [-tic] を含む語で、新しく使われるようになった外来語は、[ティック]と発音される傾向がある。当面「ティック」と発音・表記することとし、変化してきた場合には別途検討する。

〈例〉アコースティック acoustic
ドメスティック domestic

意見

荻野綱男委員: 原則変更案に賛成。昔は「チック」で導入していたものが、最近「ティック」になっている。古いものは「チック」、新しいものは「ティック」であり、そういう現状をうまくさばくための原則であれば、こういう形でいいだろう。

清水義範委員: 原則変更案に賛成。現在「チック」になっているものの中には「ティック」ではないかと思われるものもある。今後、一語一語検討することによっていいだろう。

井上史雄委員: 今回議題にあがっている問題は、①②③で違っている。①②の問題では「ものの名前」、名詞が多かった。JIS など専門用語として定

められているものが多く含まれていた。しかし、③は名詞ではないため、定めているところがない語が多い。文部科学省国語審議会の外来語の審議ではこういったたぐいの外来語は排除または置き換えをしようとした。「デモクラチック」「デモクラティック」と表記に迷うのであれば「民主的」と言えばよい。こうした語は使用率も低く、どちらにしようかと迷うのはコストパフォーマンスの面からもよくないと思う。原則としてはこれでいい。頻度の非常に少ない語については、どちらでもよいという定め方もあるだろう。世の中の動きに合わせるということでもいい。2つの表記を許しておくほうがよい。新しく出た単語については、新しいから「ティック」を使う。類例から見て「チック」と発音することも許す、としておくほうがよいと思う。

野村雅昭委員: 原則の変更案だが、(2)と(3)の文章がもってまわった言い方のように思える。(2)ならば「慣用により [チ] [ジ] と発音される語は「チ・ジ」と書く」ではいけないのだろうか。「ファナチック」は『日本語発音アクセント辞典』にのせるのが早すぎたと思われる⁷⁾。この段階で「チック」で決めてしまおうというのが思い切りよすぎた。

町田健委員: 変更案どおりでいいと思う。「ti」については昔は「チケット」など [ティ] と発音できない人が多かった。今は、[ティ] と発音できるようになっている。日本語を話している人が [ティ] と発音するのは難しくない。新しく入ってきた語であっても [チック] で発音するようになる語もあるかもしれない。その場合には、例外として「チック」にすればよい。

意見交換④ ウ濁とハ濁

問題点 V を使っている外来語(人名・地名を含む)をカタカナ表記する場合、どのように書くのかという問題である。現在は、原音に [va・vi・v(u)・ve・vo] をもつ語は「バ・ビ・ブ・ベ・ボ」(ハ濁)と発音・表記することとし、例外的に原音に近く書き表す場合(人名中心)に限って「ヴァ・ヴィ・ヴ・ヴェ・ヴォ」(ウ濁)と書いてもよいことにしている。地名と一般名詞は「ハ濁」が基本である。実際に、一般名詞についてはほとんど「ハ濁」で慣用が固定している(例:エレベーター、テレビ、バラエティー、ビデオ、ボランティアなど)。

日本語には [v] の音はない。外来語にだけ使われる表記である。外来語を「ウ濁」で書いたとして

も、日本人の発音では「ハ濁」と同じになってしまう。そのため、特別な理由がない限り、発音に合わせた「ハ濁」を基本にしている。しかし、最近、「イブ/イヴ」「ボーカル/ヴォーカル」のように一般名詞でも特定の分野の語（音楽など）に限って「ウ濁」が使われる場面が出てきている。発音・表記の原則⁸⁾を次のようにかえてはどうだろうか。

[va·vi·v(u)·ve·vo·vju] の音は次のように扱う。

- (1) 発音は、[バ、ビ、ブ、ベ、ボ、ビュ] とする。
- (2) 表記については、原則として「ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ、ヴェュ」は使わず、「バ、ビ、ブ、ベ、ボ、ビュ」で表す。

〈例〉パチカン Vatican (地)、ビタミン vitamin
アーカイブス archives
ベルサイユ Versailles (地)
ボーカル vocal, レビュー revue

- (3) 人名で原音に近く書き表す慣用が強い場合に限って「ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ、ヴェュ」と書いてもよい。

〈例〉ヴィヴァルディ Vivaldi (人)
ヴェルディ Verdi (人)
ヴォルテール Voltaire (人)
ヴエイヤール Vuillard (人)

- (4) ドイツ語の語頭に来る W-[v-] は、原則として「ワウイ・ウエ・ウォ」を用いて書く。また、スラブ語の語末の [va] は、原則として「ワ」と書く。

〈例〉ワーグナー Wagner (人)
ウェーバー Weber (人)
テレシコワ Tereshkova (人)

意見

町田健委員：ウ濁はなくせばよいと思う。非常に不合理な表記である。ウ濁で書いたところで、意味がわかるようになるわけではない。たとえば、「Venezia」も「ベネチア」と書いて、わからないという人はひとりもないと思う。「V」と「B」の違いがわかったところで日本語にとって何のメリットもない。であれば、「R」と「L」の違いのほうが重要である。どうしてウ濁を使うのだろうか。ウ濁を使うの

は、原語を知っているということを示しているだけなのではないか。原則も全部ウ濁をなくすとしてもいいぐらいだと思っている。

天野祐吉委員：これでいいと思う。たとえば、音楽番組で「Verdi」のオペラを紹介するのに「ベルディ」と言っているのかもしれないが、「ベルディ」と書かれると、そんなの知らないと思う人も出てきそう。だ。「ベートーベン」はこれでいいように思えるが、「ベルディ」と「ヴェルディ」は違いすぎる。人名に関しては、ウ濁でもよいことにするというのは必要だと思う。

野村雅昭委員：原則の変更案を見たときに、人名はあるが、地名を取り上げていないのはなぜだろうかと思った。人名に比べたら地名の例が少ないのは確かだが、地名と人名は一般語と区別して示したほうがいいのではないか。人名は、音楽の教科書で触れられているということだが、地名も社会の教科書などで表記されている。(3)は「人名と地名で、ウ濁にする慣用が非常に強い場合」というようにしてはどうか。

井上史雄委員：2つの表記がはり合う場合、一方に定めるとするのは少し危険な気がする。もう一方の表記も許すという形にしておかなければいけないのではないかと考えている。人名は(3)のように定めることにしていいと思うが、地名についてはもう少し考えてもいいのではないか。教科書や旅行ガイドなどで地名をどのように扱っているか、などを参考にしてもいいだろう。個々にはいろいろな問題があるとは思いますが、(4)で一般の表記を考慮に入れているのであれば、それを踏まえて個々に定めればいだろう。個々に定めて途中で定まらないものがあるとすれば一方にするのではなく、併用、両方認めるという形のほうがおだやかに定まるのではないかという気がする。

清水義範委員：地名については、まさに困っている問題である。今、ちょうど旅行記を書いている。地名を耳で聞いて書くのではなく、つづりで初めて見て、「V」だからウ濁で書いているものが多いようだ。ガイドブックだとそのルールが浸透しているようで、「ヴェネツィア」になっている。現地ですべて言っているのを耳で聞いて書いているのか、つづりを見て機械的に書いているのかわからない。自分ではしょうがないので、初めて行って初めて知った地名はVだったらウ濁で書くようにした。本当

の発音を現地の人がどう言っているのか知らないが、つづりから類推してウ濁にしており、なんだか変な感じがする。知らない地名をどうするか。原則で決めてしまうよりも、どちらもよいとするのが本当なのかな、という気がする。

荻野綱男委員：ウ濁は、日本語の表記として考えるときには決して好ましいものではない。こうした表記のしかたを考えると、日本語として考えるべきで、外国語のことを考えるべきではないと思う。外国語を使うときには「B」と「V」はきちんと区別して発音したり、スペリングをかえたりする必要があるが、日本語として書く場合、この問題に関して言えば、区別の必要はない。なるべくウ濁は使わないほうがいいのではないかと思う。今回の変更案は、人名に限っており、しかも慣用のあるものとしている。そう書きたいという人を拒否するというのもどうかと思う。ゆれてしまうが、これはしかたがないのかもしれない。しかし、人名でウ濁を使うことを許せば、地名も一般名詞もということになりそうだ。また、地名は「ヴェトナム」の場合、「ヴェトコン」になるだろうか。「ベトコン」で定着しているように思う。このように同じ地名で不統一が起こってしまう。

井上由美子委員：実際にウ濁を使うことはあまりないが、禁止してしまうのはどうかと思う。原則案のとおりでいいだろう。人名以外のものと言えば「Venus」の表記はどうだろう。「ミロのVenus」や「Venusの誕生」などは美術の教科書ではどうなっているのだろう⁹⁾。「Venus」をウ濁ではなく表記した場合、作品名としてなじまないのではないか。原則でウ濁の使用を「人名」に限ってしまっているのだろうか。

報道局(部内用語委員)：報道では、どちらの表記でもいい、というのは困る。優先順位を示してもらったほうがいい。

ライツアーカイブセンター(部内用語委員)：ウ濁については、ある程度原則を示しておいてもらわないと困る。たとえば「ロマンチック/ロマンティック」をわざわざスーパーすることはあまり考えにくい。しかし、地名はスーパーすることが多く、ウ濁かハ濁かを決めておかないと、「書いてもいい」では混乱する。

アナウンス室(部内用語委員)：これまで「ウ濁をハ濁と同じように読んでも差し支えない」として

たものを「ハ濁で読む」と言っている部分は大きい。運用にあたっては、ここを強調してほしい。「Vivaldi」は「ヴィヴァルディ」とだけ書いてあると誤解が生じるかもしれない。こう書かなくてはいけないと思ってしまうかもしれない。「ビバルディ(ヴィヴァルディ)」として、ウ濁も可というようにすることもできるだろう。

山下洋子(やました ようこ)

注：

- 1) 一般社団法人日本新聞協会。現在、「新聞協会用語懇談会」で外来語表記の検討をすすめている。外来語の表記については『新聞用語集 2007年版』(p.489)
- 2) 現在の原則は『NHKことばのハンドブック第2版』(p.229)
- 3) 国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」「少納言」を検索に使用した。<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>
- 4) 1966年発行の『NHK日本語発音アクセント辞典』から「カフェテリア」の形で掲載されている
- 5) 現在の原則は『NHKことばのハンドブック第2版』(p.227)
- 6) 現在の原則は『NHKことばのハンドブック第2版』(p.222)
- 7) 1966年発行の『NHK日本語発音アクセント辞典』から「ファナチック」が掲載されている
- 8) 現在の原則は『NHKことばのハンドブック第2版』(p.223)
- 9) 『世界史B用語集 改訂版』(山川出版社・2008)では「ミロのヴィーナス」「ヴィーナスの誕生」。高校美術の教科書『美・創造へ1』(日本文教出版・2008)では「眠れるヴィーナス」。『高校美術2』(日本文教出版・2008)では「ヴィーナスの誕生」。いずれもウ濁を使っている

第1364回放送用語委員会(東京)

【開催日】平成24年12月7日(金)

【出席者】天野祐吉氏、井上史雄氏、井上由美子氏、
荻野綱男氏、清水義範氏、
野村雅昭氏、町田健氏
森本和憲 NHK放送文化研究所長 ほか